



近畿管内で死亡事故発生！！



事故概要 ー道路改良工事ー

被災者は張りコンクリート型枠組立て作業（法肩から50cm車道側の止め型枠（t=10cm）を組み立てる作業）を1人で実施していた。

張りコンクリート型枠固定用材を丸のこで切断作業時に右足を損傷した。救急搬送したが死亡を確認。

考えられる事故原因は、携帯用丸のこの安全装置（カバー）が正常に作動しなかったこと、不安定な姿勢で作業していたことで誤って大腿部を切創したと思われます。原因については現在調査中です。



昨年度も電動カッターを扱う作業で、手を切創する事故が発生しています。

電動カッターだけでなく、チェーンソーや肩掛式除草機を使用した作業においても、工事関係者が負傷する事故も複数発生しております。少しの気の緩みで大きな事故を招くことがあります。各現場におかれましては今一度、作業手順及び機械の取扱説明書を熟読し、安全に作業を行うよう心がけてください。

厳しい残暑が続きます 熱中症対策の徹底を

屋外で直射日光にさらされる環境が多い建設工事の現場では、熱中症を発症する恐れが非常に高く、今年度も複数報告されています。

幸い、いずれの案件も発見・対応が早く、速やかに医療機関で診断を受けたことから、軽傷ですんでいます。しかし、処置が遅れると命に関わる可能性もあるため、躊躇せずに医療機関の診察を受けることが重要であり、朝礼時に個々の作業員の健康状態を確認するようにしましょう。詳しくはあんぜん5月号を参考にしてください。



お盆時の注意点について

- 子どもが工事現場に立ち入らないよう、バリケード、看板などの安全設備の充実を図りましょう。
- 子どもにも分かりやすいよう、イラストやひらがなの進入禁止ステッカーを貼りましょう。
- 盗難被害を受けないように以下のような工事現場内の盗難・防犯対策の強化を図りましょう。

現場出入口の施錠

車両侵入防止対策

〔現場条件に応じて対応を検討〕

- ・防犯カメラ、照明灯の活用
- ・安全協議会による夜間・休日巡視
- ・警察との連携



盗難被害が発生した場合は、速やかに警察へ被害届を提出するものとし、近隣の工事現場などへの周知や防犯対策強化、再発防止を図りましょう。

玉掛け作業に関連した事故が発生しました。

クレーン作業には資格が必要ですが、玉掛け作業にも資格が必要です

事故概要 —トンネル工事—

被災者は仮置きしてある坑内ベルトコンベア用ベルトロールをクレーン付きトラックへ載せる作業の補助を行っていた。玉掛けワイヤーのかかり位置が悪く、玉掛け者が一度下ろした際に、ベルトロールを通していた横持ち用パイプと架台の隙間に置いていた被災者の右手親指が挟まり負傷した。

仮置きするためベルトロールを通していた横持ち用パイプと架台の隙間に手を置いてしまった事が原因です。玉掛け作業については有資格者が作業していましたが、作業をやり直す際に起こった事故です。



持ち上げた際、玉掛けワイヤーのかかり位置が悪く、架台へ置きなおした際、負傷した。

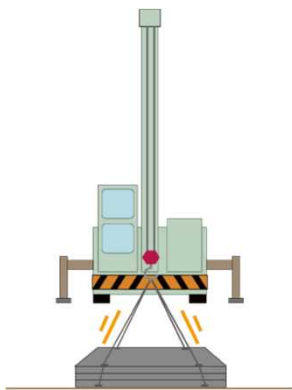
玉掛け作業責任者について

作業を開始する前、玉掛け作業全般の責任者を選任し、責任者は関係作業者を集めて作業前に打合せを行い、作業の概要、手順等、作業全体について、全員に周知徹底させましょう。

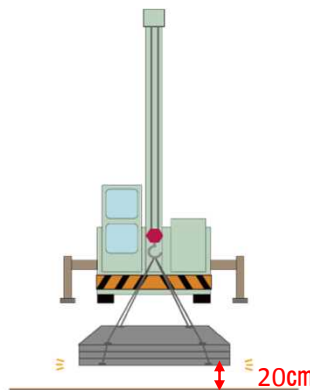
- 玉掛け作業責任者を定めて、その指示に従ってください
- 玉掛け作業責任者は作業内容、役割分担を確認し、特に複数の者が共同で作業を行う時には意思の不疎通による災害の防止に努めましょう
- 合図は統一し定められた合図により行いましょう。また複数の作業員による共同作業の場合には合図者に腕章を着用させる等、運転者から容易に識別できるように配慮をしてください

荷の巻上げ時の留意点

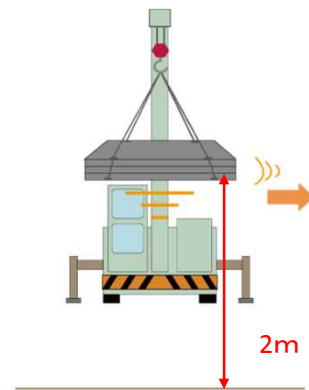
①ロープが張った時点で一旦停止



②吊り荷が地上20cm上がった位置で一旦停止



③吊り荷が地上2m上がった位置で移動



玉掛けが終わって荷を巻上げる場合はワイヤロープを緊張させた状態で玉掛け状態が良好か、玉掛用具が正しく掛かっているか荷振れのおそれがないか等を確認の後、安全な距離まで退避の上、微動巻上げの合図により静かに巻上げて、地切りした後一旦停止し、荷の安定性、玉掛け方法に間違いがないか確認しましょう。

- 長尺物には介添えロープを取り付けましょう
- 玉掛け状態が良好かどうか、確認しながらロープが張るまでは微速で巻上げを行いましょう
- 床上10~20cmで一旦停止し、つり荷の安定を確認すること。また、原則としてつり荷の高さの1.5倍以上の距離まで離れておきましょう
- 巻上げはつり荷が他の障害物に接触しないか等に注意し、つり荷の高さは、人の高さより高くし、原則として2mのところまで巻上げましょう

安全対策・リスクアセスメント資料の紹介

一般社団法人日本クレーン協会HPには、クレーン等の安全性を確保するための方法が多数紹介されています。
<http://www.cranenet.or.jp/index.html>

厚生労働省「職場のあんぜんサイト」では、移動式クレーンによる玉掛け作業などのリスクアセスメントの実施支援システムのほか、災害事例の紹介がされています。

<http://anzeninfo.mhlw.go.jp/index.html>

これらのホームページなどを活用しながら安全な作業環境の確保を図るようお願いいたします

